



アルピニストとして

山岳部 木村 緋呂

山岳部は、美しく雄大な北海道の山々を舞台に、全国と戦ってきました。大雪山系という、秋田とは毛色の違う広大な山々を登ったことで、改めて山岳という競技の過酷さ、楽しさを実感し、来年も全国大会で戦いたい、1位を取りにいきたいという気持ちに駆られました。結果は男子は27位、女子は25位という残念なものでしたが、培ったものは大きく、現在は、チームで目標を再確認して、一丸となって頑張っています。来年も同じメンバーで戦えるアドバンテージを生かして、これからも精進して参ります。応援ありがとうございます。



インターハイを終えて

ボート部 佐藤 大介

秋田高校ボート部は、昨年の四国総体に続いて2年連続のIH出場となった。今年のIHでは予選から強豪校が相手となり、弱気になる場面もあったが、仲間とお互いに鼓舞し合って気持ちを高め、レースに臨んだ。結果としては、シングルスカルは敗者復活戦で惜しくも敗退したが、舵手付きクオドルプルが準々決勝へ進むことができた。この3年間の苦しい練習の日々や仲間と過ごしたかけがえのない時間が思い起こされる。ここまでともに切磋琢磨してきた仲間や見守ってくれた家族に感謝し、部活動で学んだことをこれらの生活に生かしていきたいと思う。

突け、一瞬を

フェンシング部 津谷 龍星

初めてのインターハイ、会場に入ると気迫のある雄叫び、選手を応援する観客の声、すべてが新鮮に感じられました。独特の緊張感と高揚感に包まれて臨んだ予選は、3勝2敗。トーナメント戦ベスト32、ポイントの取り合いが続きましたが、15対14で一本勝負を逃しました。ポイントの正確性や、相手を揺さぶる思考などまだまだ伸ばせるところがありました。「駆け引きの中で一瞬の隙を突く」ということがどれほど難しいかを感じたとともに、そこに楽しさを見いだせた試合でした。熱い応援ありがとうございます。



3回戦進出

卓球部 野村 順成

初めてのインターハイではシングルスで3回戦まで進出し、2回戦では東海中総体優勝の選手に勝つことができ、夢である団体でのインターハイベスト8があと1年で本当に達成できるんだという希望を持てるようになりました。正直、心の中で自分にはほど遠いものだと思ってきましたが、今まで自分たちがやってきたことは間違っていないと分かり、より卓球への気持ちが強くなりました。支えてくださったっている方々からの期待に応えるためにも、キャプテンという立場をわきまえながらあと1年精いっぱい頑張ります。絶対に皆でインターハイベスト8を勝ち取りたいです。